

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	西武文理大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	セイブブンリダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	サービスマーケティング(メディア・イベント)
	学部・研究科等名	サービス経営学部 サービス経営学科
	担当教職員名・役職	徳田行延・教授、森谷幸一・教授
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	32
	受入企業等数	1
	受入企業等名	公益財団法人 ユニジャパン(東京国際映画祭)
	インターンシップの分類	5.低学年(大学1年次～2年次程度)からのインターンシップ,6.大企業・グローバル企業でのインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事,2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	東京国際映画祭の運営、劇場、Web広報等での就業体験、および会期前のワークショップと会期後のプレゼンテーションを行う。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している,5.当該インターンシップは、選択必修科目として実施している,7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	1年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	1年次配当で、東京国際映画祭の会期10日間のインターンシップを組み合わせたキャリア教育科目「サービスマーケティング(メディア・イベント)」として実施している。本科目では、学生の主体性に基づく就業意識と職業感の育成、先輩後輩関係での学び、仕事のゴールを意識した現場での実習経験からキャリア意識の涵養と大学での専門分野への理解を促す。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用法等を身に付ける授業等を行っている,2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている,3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている,4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している,5.その他
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	東京国際映画祭事務局の方を交えた業務説明とワークショップ
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている,2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている,3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している,2.インターンシップ中に、学生が定期的に大学等において教職員と面談を実施している,3.その他
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	毎日の報告を全員の参加者からメールにて受け取っている
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	事前学習の中で、インターンシップの趣旨や目的を説明し、目標設定等を行い、昨年参加の先輩と一緒に業務等の内容や目標をグループワークにて理解してもらい、東京国際映画祭の運営事務局の安田氏に来校いただき、業務の説明等と行っている。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	就業体験と自らの気づきや学びがどのようにつながったのかを振り返る目的で、インターンシップ後の報告会を行っている。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	担当教員が、ほぼ毎日、現場に参加し、日々のメールによる報告をもとに、インターンシップ中に学生と面談を行い、日々の課題や自らの目的と仕事のゴールの観点からインターンシップの目標達成に向けた指導を行っている。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	4.その他
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	ほぼ全員の参加者が、その後4年間にわたって、当該インターンシップに参加することから、毎年のレポート等で、学生の意識や行動の変容について確認を大々している。

要素④	4-3. 上記回答内容に関する詳細(記述欄)	東京国際映画祭へのインターンとしての参加は、ほぼ全員の学生が卒業時まで継続的に参加することから、毎年の日々の報告から学生の就業意識等の変化を見て取れる。1年次の授業では、就業体験と専門への関心の涵養を目的とし、2年次の正課授業では、チームで働く力の涵養、3年次の正課授業ではリーダーシップの涵養を主たる教育目標に掲げて、段階的にキャリア教育科目としての知識やスキルの涵養を目的としている。なお、4年次は正課の授業はないが、先輩としてファシリテーターの役割を担いながら取組に参加している。
要素⑤	5-1. 一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。 5-2. 該当する実施期間  5-2. で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄) 5-2. で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄) 5-2. で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄) 5-2. 以外の実施期間の内容(記述欄)  5-3. 上記回答内容に関する詳細(記述欄)	1.はい  1.連続した5日間以上の実施期間を確保している。2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している。4.その他  実施10日間 実施期間12日間(うちインターンシップ実施期間10日間)  東京国際映画祭期間前のクリーンアップ等のボランティア活動への参加  東京国際映画祭(公益財団法人ユニジャパン)において、会期10日間、事前ボランティア活動、前日説明会、および事前学習と事後の報告会を合わせて、計20日間30コマのプログラムとして実施している。
要素⑥	6-1. 大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。 6-2. 該当する大学等と企業の協働取組の内容  6-2. 以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)  6-3. 上記回答内容に関する詳細(記述欄)	1.はい  1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している。2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している。3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている。4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している。6.企業と協働して、PDCAを実施している。7.その他  その後の展開として2017年度は、地域(狭山市)との共催事業として、映画上映会を計画実施し、東京国際映画祭スタッフも実現に向けて無償で学生を支援し、「サヤマdeシネマ」を実施した。 事前にインターンシップの意義や目的を受け入れ企業に理解いただき、受け入れ企業サイドでも受け入れ態勢を整備するための、プログラムや取組を大学と協働して積極的に毎年計画実施している。補足として、2017年度は、大学所在地(埼玉県狭山市)との共催で、映画上映会「サヤマdeシネマ」を学生の企画で実施し、その計画実施を東京国際映画祭のスタッフが全面的に支援した。
	7. 上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	別途提出済み
問い合わせ先	大学等名 担当部署名 担当者役職名 担当者氏名 電話番号 メールアドレス	西武文理大学 サービス経営学部 教授 徳田行延 04-2954-7575 tokuda@bunri-c.ac.jp